

令和7年度 久佐まちづくりセンターの主な取組

事業名

異文化・異世代交流 ～国籍や年齢を越えて繋がる人と地域～



P

●事業実施に至った背景、目的

【異文化交流】…国際交流員の皆さんの活動を知り、地域の方に様々な国の人や文化に触れ、それぞれの違いや良さを知ってより身近に感じてもらいたい。また、久佐地区にある特別養護老人ホームではインドネシア出身の実習生が8名働いており、地域行事等に参加してもらっている。その実習生たちと日常でも交流をするきっかけになれば、という思いから企画。

【異世代交流】…少子高齢化により世代間の関わりが薄くなっている中、島根県立大学生に地域の行事や子ども対象の事業に参加してもらい、世代を越えて関わる楽しさや学びを互いに感じてもらいたいと企画。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

【異文化交流】5月中旬～：国際交流員の方々と打合せ(日程や内容決め)

【異世代交流】4月下旬～：前年度からアプローチし、地域行事に興味のある県立大学生とコンタクトをとる(西部県民センター担当者を通して繋った)

D

●事業の概要

【国際交流員さんと世界の遊びを体験しよう!】

- ・夏休みの子どもの居場所づくり事業に合わせて行った
- ・クイズを交えながら楽しく異国の文化について学んだ
- ・紹介してもらった海外の遊びをみんなで体験して楽しんだ



【海外の楽器や歌のミニコンサート】

- ・くざまんなかサロン(地区全体の高齢者の集い)で、国際交流員さんが二胡の演奏や母国語での歌唱などを披露。
- ・コンサート後も楽器や国について地域の方と国際交流員の方が会話し、交流の場となった



【案山子づくり&手作りランチで交流】



- ・10年以上続く久佐の案山子づくりに県大生が参加
- ・地域の方が作ってくれた昼食と一緒に食べて交流した

【食改さんと美味しいランチを作るぞ!】

& 【水遊びで楽しむぞ!】

- ・低学年から大人まで一緒にランチ作り&共食交流
- ・後半は県大生と小学生と一緒にシャボン玉や水風船キャッチリレーなど水遊びを楽しんだ



C

●事業実施後の振り返り

- ・小学生が様々な国の子どもの様子を知り、驚きやそれぞれの国の良さを話し合う時間がとても良かった
- ・高齢者の方が「海外旅行をしたみたいだった」と喜ばれ、いつもは参加されない方も積極的に足を運んでくださった
- ・県大生が子ども達へ“経験が自分の力になるよ”と前向きなメッセージを伝えてくれた
- ・インドネシア出身の実習生が国際交流員さんや子どもたちとの交流をとても楽しんでた

A

●今後の方向性

今年度は国際交流員の皆さんやその国についての紹介が主だったが、来年度は料理教室やワークショップなど体験型の交流事業を企画したい。そこに県大生も参加してもらうなど、内容を工夫しながら引き続き“異文化&異世代交流”を続け、人と地域を繋げていきたい。